

知恵の樹

No. 219 2017.12.26

町田の図書館活動をすすめる会
<https://machida-library.jimdo.com>

代表：手嶋 孝典
teitaka@f8.dion.ne.jp

2018年3月22日(木)～25日(日)「第7回 まちだ図書館まつり」が開かれます！

文化の中心として機能する図書館に

増山正子

ファンタジーの世界を行き来し、読書の世界に援けられた経験を数多く持つ私は、何の迷いもなく地域の教育力として「おはなしを語る活動」を始め、1984年に「まちだ語り手の会」を立ち上げた。そして、児童サービスに「素話＝語り」を取り入れてもらい、初めて町田の図書館におはなしのボランティアが誕生した。全国的にもおはなしボランティアが増える中で、町田でも図書館の講座受講生による小さなグループが数多く誕生した。

2010年に中央図書館20周年記念フェスタが市民協働で行われたのを機に、市民の意向を汲んで、翌年より中央図書館の児童セクションが、ボランティアの団体に「図書館子どもまつり」への参加を呼び掛け、おはなし会中心の第1回とよかんこどもまつりが、中央図書館1館のみで3月末の4日間開催され、毎年行われることになった。

翌年3月、町田で第2回が開催されている時、私は、アニメーション研修のためフランスに出かけ、学校図書館でのメディア教育、公立図書館の多様なプログラムを見せてもらったが、中でも、2年に一度2週間開かれているという「レンヌ図書館まつり」は、興味深いものであった。

レンヌ中央広場にバカでかいテントが張られ、子どもたちの作品と共に、天井からはイベントに招待された絵本作家の原画が、どの図書館に展示されているかの大きな短冊が、ぶら下がっている。それを見て、お目当ての作家の展示を見ようと電車を乗り継いで出かけたのだが、正午に到着、図書館は既に2時までの休憩時間に入り、近くでお昼を食べ

ながら待つというハプニングもあった。

「文化施設がたくさんある中で、図書館が文化の中心となるためにはあらゆる努力をしなければならない」と、司書という専門性が確立された人たちが仕事に誇りと夢を持ってイキイキと働いている有様に接し、資料(本)の果たす役割、図書館の存在する意義を知らしめる事の重要性と共に、「人の力」がいかに図書館をささえているかを改めて認識した。

フランス全土、あるいは市・町の「共通したテーマ」で、図書館の蔵書と関係を持つ文化施設と共に関連したプログラムを組み、作家や書店をも巻き込み、0歳児から大人のための魅力あるプログラムを提示し、豊かに楽しく自立した市民を育てるという、教育機関としての図書館の確立。市民の足を一人でも多く図書館へ誘おうと意欲的に取り組む司書たちの姿はとても魅力的であり、フランスにおける図書館政策の多様性と豊かさを学ぶことができた。日本の図書館事情はフランスとは全く違い、地域に根を持ったボランティアとの協働を図らねば、図書館の発展は望めない。

町田での図書館まつりは、第6回目にしてやっと全市立図書館&文学館の子どもだけではない「図書館まつり」となったが、次の目的は、歩いて利用できる地域図書館のまつりを盛り上げることである。私は、「さるびあ図書館」のおはなしボランティアの人たちと、面白いまつりにしようと今準備に取り掛かっている。

(会員)



「文学館の存続を求める請願」に参加して

漱石夢倶楽部・代表 関本 希世美

「町田市民文学館ことばらんどを、今後も現在の場所に存続させること」を求める請願が、12月22日、町田市議会において全会一致で採択されました。

この署名活動は、文学館周辺の前町田地域9町内会が中心となって始まったものでしたが、森村誠一先生をはじめとした多くの著名文化人の方々が賛同者としてお名前を連ねてくださり、町田市民のみならず、文学を愛する方々や図書館関係者、出版業界の方々などを通じ、全国に支援の輪が広がって7091筆もの署名が集まりました。

採択にあたっては、22日の本会議に先だって、13日の文教社会常任委員会において審議され、その際には、原町田地域の代表・平本勝哉さんと共に、利用者代表として私も、意見陳述と質疑応答を行いました。議員の方々からは様々な角度からの質疑があり、中には厳しいご意見、難しいご質問などもございましたが、今後の文学館の発展のためには、町田市職員の方々のご尽力はもとより、地域住民と利用者とが一体となって支援していくことの重要性に気づかされました。

今となれば、言いそびれてしまったこと、言い間違いなど、反省点ばかりが思いあたりますが、文学館が如何に大切であるか、その思いだけはご出席の議員の皆様にしっかりと届いたようで、最終的には、全会一致で「採択すべきもの」との結論に至りました。

文学館には、図書館としての機能もあれば、展覧会や文学講座などを開催する文化施設としての魅力もありますが、私が個人的に最も訴えたかったこと

文学館が、文学を通じ、地域住民、文学館利用者、文学館職員の「交流の場」となっている点でした。そこには、地域の方々にとっては、戦前の原町田公会堂からの永い歴史があり、私たち地域外の利用者にとっては、サークル活動等を通じての人間関係の深さがあります。

今でこそ、私も市内で複数の文学サークルに所属し、文学館や公民館などで活動しておりますが、そのきっかけとなったのは、文学館で文学講座を受

講したことでした。また、その折には、文学館の職員の方のご支援により自ら新しいサークルを立ち上げる機会をも与えていただきました。このように文学館は、文学の「学習の場」のみならず、文学愛好者の集う「出会いの場」でもあるのです。

サークル活動を続けておりますと、退会する方もいらっしゃるれば、時には、会そのものが活動休止や解散となってしまうこともあります。しかし、そのような時、私は必ず「また、文学館でお会いしましょう」とご挨拶しています。これはとても幸せで恵まれたことだと思います。

この度の署名活動を始めてくださった原町田地域の皆様、署名や傍聴にご協力いただいた皆様、また、意見陳述や質疑応答を行うにあたって様々なご教示をくださいました多くの方々に、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

町田市民文学館ことばらんどの存続と今後の発展を心から願いつつ、今後とも、町田市の公共施設再編計画がどのように進められていくのか注視してまいりたいと思います。

まちだ未来の会 第9回 学習会

市民が考える「公共施設再編計画」!

- * 私たちの未来はもっと明るい
- * 公共施設の長寿命化が基本
- * 地域の施設に市民の知恵と力を

日時:1月21日(日) 午後2時~4時30分

会場:町田市民文学館 大会議室(2F)

報告:市の再編計画を考え直すための請願、
地域2図書館・文学館存続の請願

提案:市民が考える再編計画

質疑・討論:議員の方々にもご参加を呼び掛け、市民と共に考え合います。

参加費:300円(カンパ)

主催:まちだ未来の会

連絡先:TEL 090(4703)8878(蘭田)

「公共施設再編計画」を読み解く・採点する！？

庄司 洋子

11月23日(木・祝日)、町田市民フォーラムにて、町田未来の会の第7回学習会が行われた(参加者23名)。

私たち市民にとって、身近な施設の存廃を提案する再編計画は全く唐突なものであるが、これらの計画は、市民でもない学識経験者、コンサルタントの提言がベースになっていると思われる。これをどう読み解くか、都市計画・まちづくり分野のコンサルタントK氏(実名を出さないのは、自治体のコンサルタントを広く請け負っているため、支障がないようにとの配慮です。)に講義してもらい、そののち、参加者が質問や提案をポストイットに記入して討論した。

まちだの公共施設のなにが問題か？(コンサルタントK氏の講義より)

国は再編計画をたてるよう指示、補助金の交付により誘導している。町田市の計画は、公共施設の老朽化対策と、コストを下げ、新たな価値の創設ということ进行全面にだしている。財政が厳しくなることを予想し、「新しい建物を造らない」「今ある建物を有効活用」「集約化・複合化、施設の量を減らす、施設の長寿命化で維持管理費を減らす」という計画は教科書通りである。

再編の方向性を確認すると、まず存続される施設は、庁舎、文化ホール(民間委託?)生涯学習施設、子育て施設(学校を中心とした複合化?)スポーツ施設(民間委託?集約化?)。一部廃止(近隣の類似施設に集約が想定される)は、保健施設、教育文化施設、図書館、美術館、博物館、学校。10地区にある行政出先機関は縮小。廃止(機能移転や民間への譲渡が想定される)は、高齢者福祉施設、障がい者福祉施設。

以上、廃止や削減まで踏み込んだ内容であり、再編により質が大きく損なわれることはないか、新たな価値が創出できるかについては予断をゆるさない。

今後の課題と対応として、次のことがあげられた。

課題1. 市政全体で整合性がとれているか？

総量圧縮と言いながら、大規模な開発計画や構想がありそうである。たとえば、南町田グランベリーモール跡再開発など。厳しい社会、経済状況を踏まえた維持管理費用の想定ができていますか？

課題2. 削りやすいところから削る計画になっていないか？

最大の負担になる学校施設に手を付けなければ無理。この部分の数値目標がなければ、他の施設は際限なく「再編しなければならない」ことになる。

課題3. 集約化・複合化によっておこる問題は何か？

施設の立地や歴史等は、効率性や収益性に劣るのか？

どうしても身近にあってほしい施設を維持する方法はあるのでは？

一部に発生する不便を補うような新しい魅力を創出できるか？

課題4. 民間委託だけが運営費圧縮、サービス向上の方法か？

TSUTAYA 問題、管理運営費が市外流出する問題も。

良い民間委託と悪い民間委託を見分ける。市民団体が場の運営を担うことで、人材育成や内需拡大につながるか。

対応1. 市政や計画全体の問題を指摘して見直しをはかる。

対応2. “使う専門家”である市民の視点から施設の在り方をまとめる。具体的な提案に。

対応3. ゲリラ活動的に公的機能の提供を行う。

たとえば廃止予定の施設の活用プロジェクトに取り組むなど。

講義ののち、質問は黄色、提案は青いポストイットに記入して模造紙に貼りだし、活発な討議がなされた。ちいさなことでも、市民がやれることがあると思う学習会であった。(会員)

これからどうなる？ これからどうする！ さるびあ図書館

手嶋 孝典・清水 陽子

12月16日(土)、町田市立中央図書館ホールにて、まちだ未来の会第8回学習会が、町田の図書館活動をすすめる会との共催で開催され、38名の参加があった。

講演①、②、報告①、②、質疑・討論が行われたが、講演②及び質疑・討論については、次号に掲載を予定している。

講演①は、「さるびあ図書館、その歴史・役割・意義」と題して、手嶋孝典(町田市立図書館・元館長、町田の図書館活動をすすめる会代表)により行われた。講演要旨は、以下のとおり。

はじめに

町田駅周辺で中央図書館と重複しているとして、さるびあ図書館が再編計画の俎上に挙げられている。

現在のさるびあ図書館は、1972年5月、町田市立町田図書館(本館)として現在の地に開館して以来、市民に親しまれている。

1. (さるびあ)図書館の歴史

1956(昭和31)年9月16日 町田町立町田図書館開館(538㎡)。館内閲覧のみの図書館。

1958(昭和33)年2月1日 町村合併により、町田市立町田図書館に名称変更。

1968(昭和43)年9月 市役所新庁舎建設のため現在のさるびあ図書館の場所に178㎡の仮図書館を建築。個人貸出図書館として再出発。

1970(昭和45)年3月17日 市役所分室を図書館に改造し、開館(392㎡)。

同年10月27日 移動図書館そよかぜ号1号車巡回開始。

1971(昭和46)年9月28日 移動図書館そよかぜ号2号車巡回開始。

1972(昭和47)年5月22日 本館(現さるびあ図書館)開館。

同年10月11日 移動図書館そよかぜ号3号車巡回開始。

1990(平成2)年11月30日 中央図書館開館。

同日 既存館の館名変更(町田図書館⇒さるびあ図書館。鶴川・金森・木曽山崎・堺分館⇒分館を図書館に変更)。

2. 中央図書館や他の地域図書館にはないさるびあ図書館独自の役割

①移動図書館そよかぜ号の基地としての役割

②学校及び学校図書館支援の役割

③地域文庫・読書会・その他の団体の貸出拠点の役割

④専用駐車場があることにより、遠方からの利用を可能にする役割



3. 公立図書館の機能とさるびあ図書館が存在する意義

図書館の基本的な機能は、利用者が求める資料・情報を的確かつ迅速に提供することであり、時代を超えた普遍性を持つのではないかと。読み物や趣味・娯楽に役立つ資料、教養を身に着けるため、或いは生活に必要な資料・情報を住民の当然の権利として、無料で手に入れることができるのが公立図書館である。無料といっても市民が税金を払うことにより、公費で運営している。

貸出しが減っていることを再編成の理由の一つに挙げているが、資料費削減がその原因である。

本来であれば、南地区などにもっと地域図書館を建設する必要があるが、現在それが難しいということであれば、移動図書館の巡回サービスの必要性がなくなることはあり得ない。

さるびあ図書館が安全で静かな住宅地に立地しているという利点を生かし、地域のコミュニティの核、

情報拠点としての役割を発展させることを検討すべきであろう。

具体的には、近隣の町内会との連携を深めるなど、地域の活動にも密着した図書館活動を展開していくこと(もちろん、資料・情報・場の提供が中心となるが)を積極的に考えるべきではないか。

講演②は、「公共施設の長寿命化を考える—さるびあ図書館を例として—」と題して、大宇根弘司(市内建築家)により行われた。⇒ この講演については、次号に詳細を掲載する予定です(編集者)。

報告①は、「鶴川図書館の存続を求める請願」採択について、富岡秀行さん(公団鶴川団地自治会事務局長・センター名店会渉外担当)から。

請願は採択されたが、心配なところは今もある。議員で勉強させてほしいと言ってきた人は一人だけ。議会も市民の立場に立ってという気概はあまり感じられない。当商店街は小田急線沿線の商店街の中では評価されており、運営していく上では今の形が良いと思っているが、URからは耐震性の問題として立て替えを提案してきている。来年団地は50周

年を迎えるが、商店街だけでなく、耐震に問題があるところは団地の建て替えも検討されている。

報告②は、「市民文学館ことばらんの存続を求める請願」について、土屋利之さん(文学館通りを考える会、原町田四丁目第二地区街づくりの会・副代表幹事)から。

12月13日の文教社会常任委員会において全会一致で採択すべきものとされた。原町田地区自治会連合会での約3,000筆を含め、北海道から九州まで全体で7,091筆の署名が集まった。請願審議では町内会の平本さんと文学館利用者の関本さんが陳述した。文学館は2015年の事業仕分けにかけられ限りなく廃止に近いとされ、市はその呪縛にしばられて、消極的な意見になっていた。議員はこの請願運動から文学館が地元にも利用者にも愛されていることを再認識する機会になった。とはいえ、文学館にも課題はあり、文学館の今後の新たな役割、原町田にある存在意義もともに深め合い提案して、重層的な文化ゾーンのなかの拠点としての発展を考えたい。

「第32回 のづた丘の上秋祭り」を終えて

野津田・雑木林の会 代表 久保 礼子

「この自然を、いつまでも！」と、市のスポーツ公園計画に抗して市民が自主的に集ってスタートした「のづた丘の上秋祭り」が、今年32回目を迎え、恒例の11月3日(祝・文化の日)に無事終了しました。昨年同様、野津田・雑木林の会が呼びかけ人となり、実行委員会を発足させました。出店団体全てが実行委員となり、企画・準備・運営を共に行うというというスタイルで取り組み、今年は地域への周知と広報活動が充実し、過去最大の人出となりました。

出店は、今年も20余団体。何より“自然が主役”のお祭りです。会場の野原に負担をかけない数のブースを並べようと例年心がけています。子どもの文化、自然保護、環境、福祉などなど、様々な分野のグループ・団体が、それぞれに工夫を凝らしたブースを並べました。

野津田・雑木林の会はお店とは別に、昨年初チャレンジをした特設展示会場に今年も注力。会場入り口

で、野津田公園東側里山エリアの自然の豊かさを写真と生(なま)のフィールドサインで報告。生物多様性に配慮した草地管理の実践などアカデミックな情報も揭示し、市が進めている『第二次野津田公園整備計画』の見直しをアピールしました。

その向かいの広い草地では、今年初参加の町田紙飛行機倶楽部が紙ヒコーキ体験のワークショップ。子どもも大人も、車いすの人も、自分が作った紙ヒコーキを空に放ち嬉しそうでした。

会場の広場の最奥は、今年も野外劇場。秋色に優し



く染まった雑木林をバックに、まだ語り手の会と町田の図書館活動をすすめる会の仲間が、

第 17 期図書館協議会 第 3 回定例会報告(報告者 清水 陽子)

2017 年 11 月 20 日(月)午後 2:00～3:10 中央図書館・中集会室 傍聴者 なし

【報告事項】

《館長報告》

1.教育委員会 第8回 11/10 図書館関係はなし。

2. その他

① 点訳体験ボランティア講座 10/24 20 名参加

Q: 沢山の方が参加されているが、初級講座につなげる手立てはあるか⇒図書館では初級講座をしておらず、今回は講座の情報も提供できなかった。次回はご案内できるようにしたい。

② 京王線沿線七市連携協議会 10/25

Q: 七市連携の利用報告は作られているか。公開はどのような形でしているか。⇒年に1度まとめている。各市で必要に応じて公開。

意見: 結果を分析されることを要望。見えてくるものがあるはず。

③ 東京都市町村立図書館長協議会 10/25

多摩地域公立図書館大会 2/6～8 都立多摩図書館にて開催予定。

④ 東京都市町村立図書館長研修会 11/14

図書館サービスにおけるユニバーサルデザインについて 関根千佳 氏 (同志社大学)

⑤ 市民参加型事業評価(木曾山崎図書館) 11/18

資料に基づき概要説明(10分)と評価人とのやり取りののち評価

市民の評価: 説明前 現状維持 46% 要改善 41% 廃止 12%

評価人からの質問

利用者の年代別にみると木曾山崎図書館が一番年齢層が高い事に対して等。

市民の評価: 討議後 現状維持 43% 要改善 50% 廃止 7%

評価人: 全員要改善

・担い手の問題、市民との関係、館レベルの分権が必要では。

・ユーザーにあった環境づくりが必要。

・地域交流の場に。

・ネットによる効率化の強化が必要。

・高齢化に対する対応、潜在的な需要の掘り起しが必要。

・地域ニーズへの迅速柔軟な対応が必要。

今後、要改善という結果を受けて改善プログラムを作ることになる(以上、報告)。

Q: 評価人は初見で評価するのか⇒当日までに4回ほど学習会などやりとりが行われていた。

意見: 人的、費用的な背景とサービスの関係などまで掘り下げて評価されているのか疑問。

感想: 評価といっても様々な提案が出ていたので、改善点や課題も見えてきたように思えた。

・現状維持、要改善、廃止の評価の意味が分かりにくかった。要改善が評価として一番良いという雰囲気会場にできているように感じられた。

意見: 図書館は中央、地域館を含めて図書館なので、その全体を捉えないで木曾山崎だけ評価するのは意味がない。イベントでしかない。

⑥ 「ゴッホ展」関連文化講演会 11/30

⑦ 中央図書館エレベーター改修工事 1/29～2/26、1/29～2/5 蔵書点検期間として休館。以降は2階に職員を配置し開館。

【協議事項】

1. 図書館評価について

12月に提出する。この後内容の検討。

2. 図書館視察について

1～2月に実施。堺以外の地域館が対象。学校図書館もいれる。

★次回第17期図書館協議会第4回定例会は2018年1月15日(月)午前9:30～。

訂正とお詫び

「知恵の樹」№218 5頁の記述に誤りがありました。以下が正しい記述です。

鶴川駅前図書館開館 2012年度

忠生図書館開館 2015年度

主任嘱託制度発足 2012年度

*PDF版については、訂正済みです。

ひろば



例会 11/28 (火) 報告

- ・17:00～印刷他作業(清水・多田・手嶋・丸岡)
- ・18:00～20:05 中央図書館・中集会室

出席:石井・久保・清水・庄司・鈴木(真)・多田・手嶋・中嶋・野町・増山・宮

1. 会報について

No219: 巻頭言 さるびあ図書館のボランティア組織立ち上げの経緯について(増山)、まちだ未来の会第7回学習会報告(庄司)、「こんな本見～つけた!」第4回(庄司)、第3回図書館協議会報告(清水)、「のづた丘の上まつり」について報告(久保)、文学館の存続を求める請願について(守谷⇒漱石夢倶楽部代表・関本希世美さん)

2. 今年度の活動計画について

図書館見学会: 候補に挙がっているのは、次の図書館。

・豊中市の図書館(学校司書は全校配置され、図書館司書共々読書推進課が掌握。豊中市立図書館協議会が指定管理者制度導入について答申を出している)

・枚方市の図書館(指定管理者制度導入反対運動に常勤職員が関わっている)

・茨木市立庄栄図書館(茨木市立庄栄小学校の敷地内にあり、小学校とは連絡通路でつながっている)

3. 「町田市5ヵ年計画 17-21」、「町田市公共施設等総合管理計画」等について

まちだ未来の会の取り組み

・12月議会に請願を2件提出

①市民生活に根ざした「公共施設再編計画」の策定を求める請願

「行政内部で想定されている各施設の計画案、または見直しについて早急に市民に提示すること」に文言を変更して、再提出。

②文学館の存続を求める請願

・まちだ未来の会第8回学習会(「すすめる会」と共催)

12月16日(土)午後2時～4時 中央図書館ホール

・さるびあ図書館の建物の長寿化

10月31日(火)午後1時～3時 さるびあ図書館見学

会を行い、未来の会の世話人でもある建築家大宇根弘司さんに建物の寿命について調査してもらった。結果については、「まちだ未来の会第8回学習会」で報告。

「すすめる会」の取り組み

さるびあ図書館を存続させることを求める請願については、来年3月議会に提出する。「町田市におけるさるびあ図書館独自の機能について、その重要性」「町田市立図書館の本館として誕生した歴史ある図書館であること」「市内8館では不足、BMでは対応しきれないこと」「地域文庫やPTAなどから頼りにされていること」等を盛り込む。

4. 学校図書指導員について

その後の進捗状況は特になし。

5. 「第7回まちだとしょかんまつり」実行委員会について

3/25(日)午前10時30分～12時 中央図書館6階ホールで、広瀬恒子さんの講演会「2017年度児童新刊本から どの本読もうかな?」を実施。チラシ必要枚数は、200枚(昨年度と同じ)。展示については、「こんな本みつけた!」の中から2～3冊選んで展示。

報告

1. 第17期図書館協議会 第2回定例会

「知恵の樹」No219 7頁参照

2. 木曾山崎図書館の事業評価について

第17期図書館協議会 第3回定例会報告参照(「知恵の樹」No219 7頁)

3. 町田市公共施設再編計画策定検討委員会

省略。

4. 団体及び個人からの報告

久保:「のづた丘の上秋まつり」は、盛況の内に終わった(「知恵の樹」No219に掲載予定)。⇒5,6頁に掲載。

図書館六分会協議会:11月30日(木)総会開催。

《編集後記》まちだ未来の会が取り組んだ3本の請願が、いずれも市議会本会議で採択された。〈鶴川図書館の存続を求める請願〉は、9月議会で採択。〈市民生活に根ざした「公共施設再編計画」の策定を求める請願〉は、9月議会で継続審議となり、若干修正の上再提出したが、12月議会で採択。新たに提出した〈町田市民文学館の存続を求める請願〉は、12月議会で採択。採択は喜ぶべきことだが、その後の行政の対応を監視することが大切だ。次は〈さるびあ図書館の存続を求める請願〉を3月議会に出す予定。(T2)